



〈ホームページ〉

中央小学校だより NO. 17
「心やさしく たくましく」

<http://chuo3131.ec-net.jp/>

令和元年8月9日
波佐見町立中央小学校
TEL 0956-85-3131
(文責 校長 原 源吾)

平和のバトンをつなごう！～74回目の夏～

前夜から連続する警報……その中で、9日朝は、快晴無風であけた。軍需工場の多い浦上に、戦闘帽、巻脚はん、防空ずきんを肩にした人たち、女子挺身隊、動員学徒の群れが汽車、電車で鈴なりとなって続々と終結し、刻一刻、緊迫感が渦巻いてゆく。

空襲警報発令！

多くの市民は、これを「定期便」と呼び、また「時報」とささやき合っていた。やがて、警報が解除となり、いったん付近の防空壕などに退避していた工場従業員が職場に戻り、家庭の主婦たちも昼食準備に取りかかっていたところ一

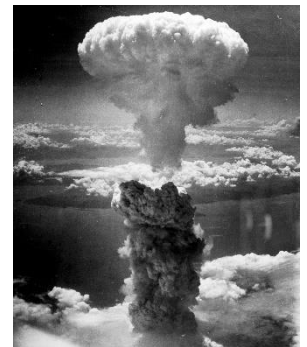
突如、ラジオが、“B29、島原半島上空を北進中”を伝え、市民の中には、飛行機の爆音を耳にし、東方上空に「ギラギラ光るB29」、浮遊する落下傘を眺めているものもあった。

香焼島(爆心地から南約10キロ)に駐留する高射砲隊は、眼鏡の中にB29の機影を捉えて追跡し、金比羅山(爆心地から南東約1.7キロ)高射砲隊もまたいっせいに砲身を向けた。だが、90式測高機が測定した高度は、9500～10000メートル。射程圏外。やむなく「戦闘態勢乙」……なかには、浮遊する落下傘を目標にして射撃訓練を行う分隊もあったという。兵員は、鉄帽をはずし、上着を脱ぎ、上半身裸の者も多かった。

午前11時2分！！

異様な閃光が走り、すさまじい爆風、爆風が大気を裂いて来襲。山野にどよめくごう音、地軸をゆるがす衝撃波、熱線が照射し、火事嵐が荒れ狂った。

〔長崎原爆資料館ホームページより〕



左の写真は、原爆投下後に、アメリカの従軍カメラマンが撮った「焼き場に立つ少年」です。亡くなった弟を背負った少年が、火葬場で順番を待つ間、まっすぐ前を見つめ、歯を食いしばって立っている姿が、原爆の悲惨さ、大切な家族の命を失った少年の悲しみや悔しさ、無念さを表すものとして、11月に来日予定のローマ法王も、世界中に広めるように呼び掛けた写真です。(先日NHKで、この写真の特集が放送されました。)

さて、今日、本校では平和集会を行いました。その中で、私は、「平和のバトンをしっかりつないでいこう」という話をしました。〈74年前に戦争が終わって以来、日本は戦争をしていません。この平和は、74年前から戦後の苦しい生活に耐え、二度と戦争を起こしてはならないという強い意志で平和のバトンをつないでこられた先人の方々のおかげです。今を生きる私たちは、これを80年、90年、100年、200年・・・と続けていかなければなりません。今は「平和のバトン」を大人が握っていますが、次の担い手は君たち子どもです。ですから、大人になってから、戦争のこと、平和のことを勉強しても遅い、平和のバトンを大人から受け継ぐために今のうちから、昔の戦争を知り、未来の平和のために自分たちは何をしていけばいいのか、しっかり学び考えていくことが必要です。〉というお話をしました。

ぜひ、ご家庭でも、次の平和の担い手である子どもたちに、戦争の恐ろしさ、悲しさ、平和の大切さ、ありがたさ等についてお話してください。

※裏面はありません。